

赤羽和春

今回の山行は、学生時代に個人的に2度ほど慰霊の意を兼ねて西穂に登って以来でした。

気にはしていたのですが、子供の用事や仕事で長期的な計画が立てられず、西穂は遠いものとなっていました。

40周年行事の一つとして、慰霊登山が計画されているのを知り迷わず申し込みをしました。（山の神には直前までロープウェーの利用を勧められましたが）

現地で当時現場に居合わせた仲間の話を聞き、今まで以上に胸を打たれました。

大変でしたが、行ってこれたと言う実績ができましたので、今後とも是非続けたいと思っています。

安藤由喜子

いつかは慰霊に登りたいとずっと思っていました。ようやくその思いを叶えることができました。体力的にも今回参加せねばと思いました。企画していただき有難く思います。

私も子供を亡くして十年がたちます。が、拭いきれない喪失感、心の痛みは続いたまま、むしろ、時を経るにつれ、年をとるにつれ、悲しみは、深いところで大きくなっているようにさえ思います。当時の、そして今に至る御両親様方のそのような思いは如何許りであろうかと、一層御両親様方への思いを深くしております。当初は私たちの姿を見ることさえお辛かったのではと思います。

クラスや授業で共にした、いつてしまった友らの顔。一コマ一コマ、思い出す度、つくづく無念なことだと思うのです。

独標は想像以上に険しい場所でした。

「天地砕くるばかり」

悲しみが募りました。

